

エコベースHE920・HE750共通 土間設置手順例

エコベースは重量物のため、運搬時足に落としたり、手を挟めないよう、取扱いには十分注意して下さい。

1. 土間の整地



エコベースより広く土間を整地します。
砕石 150 mm以上、捨てコンクリート 30 mm程度分掘り下げて、沈み込まなくなるまでしっかりつき固めて下さい。可能であればランマでつき固めて下さい。砂質等で土間が締らない場合は、砂とセメントを混ぜて地盤整地を行う必要もあります。地中抵抗アンカーを打ち込むため、掘り下げた時に埋設物の位置をご確認下さい。

2. 砕石を敷く



沈み込みを防ぐため砕石を敷き、つき固めます。
砕石サイズは 15~20 mm程度が目安です。
(砕石は現場でご準備下さい。)

3. 捨てコンクリートを敷く



ドライコンクリート 25kg 2袋をふねにあげ、約 4 割弱の水で固めに練り混ぜ、捨てコンクリートを作り、砕石の上に敷き、つき固めてから水平をとります。

4. 下部ブロック、上部中央ブロック設置



下部ブロックのレールを内側に置き、レール間寸法を **HE920=500mm**、**HE750=350 mm**にします。地中抵抗アンカーを打ち込む際下部ブロックが動かないように付属の M12×100 mmボルトを中央にセットします。

5. 地中抵抗アンカー打ち込み準備

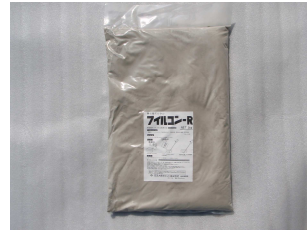


アンカー上部…ナットを端までねじ上げ、ハンマーで叩く面を作ります。



アンカー下部…ワッシャーをナットで挟んだ方が下です。こちらを下にして地中に打ち込んで下さい。

6. フィルコンR練り混ぜ



1袋 5kgにつき 0.9ℓの水で高回転ハンドミキサを用いて約3分間練り混ぜて下さい。



7. 地中抵抗アンカー打ち込み



エコベースの貫通穴から地中抵抗アンカーを差し込み、ハンマーで地中に打ち込みながら、練り混ぜたフィルコンRを、打ち込んだアンカーの隙間に注入して下さい。時々アンカーを動かし、隙間によく入るように注入して下さい。この作業により地中で鉄筋入りのコンクリートの柱が形成されます。

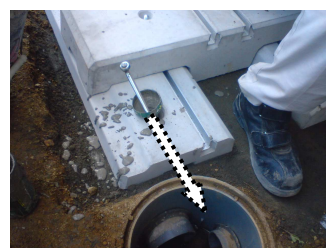
こんな時は・・・地中抵抗が打ち込めない場合

1) 打ち込み途中で埋設物に当り打ち込めない



エコベース下部ブロックの上面でアンカーをカットし、カットしたアンカー上部を逆にして叩き面を下にし斜めに打ち込み、フィルコンRを流してコーティングして下さい。

2) 貫通穴の下に埋設物があり打ち込めない



埋設物を避け、斜めに打ち込んでフィルコンRでコーティングして下さい。

8. 上部ブロック設置



下部ブロックのレールに付属の M12×100 mm ボルトをセットし、残りのブロックを載せます。19 mmボックスレンチを用い付属のワッシャー、スプリングワッシャー、ナットを、通常の人が手で締め付けられる程度の強さで締め付け固定します。

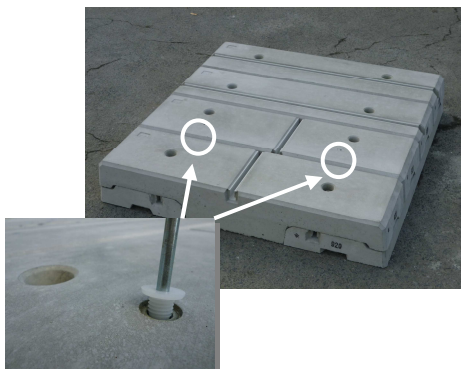
9. 仕上げ（タンクユニットが3本脚の場合）



上面ブロックを固定したナット部をコーキング剤やモルタル等で埋め、外観を仕上げて完成とします。

エコユートタンクユニットは付属の M12×50mm どぶ付ボルトを用い、レールにセットし、**必ず3ヶ所**で固定して下さい。その際 19mm レンチ等の工具で緩みがないよう確実に締めつけて下さい。

10. 仕上げ（タンクユニットが4本脚の場合）



※HE920のみ対応

パナソニック角型4本脚のタックユニット据え付けの場合は**必ず4ヶ所**で固定して下さい。

ブロックNo.2に2ヶ所インサートが埋め込んであります。4mm幅のマイナスドライバーでねじあげてキャップを外し、付属の M12×30mm ダクロメッキボルトで固定して下さい。

その際 19mm レンチ等の工具で緩みがないよう確実に締めつけて下さい。

<エコベース HE920・HE750 完成>

<注意>

これは施工一例のため、地盤が軟らかい場合や寒冷地などは砂利の量を増やすなど、現場に合わせた施工をして下さい。